

高齢者疑似体験プログラムの提案

氏 名 臼倉 京子 准教授

所 属 作業療法学科

U R L <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=182usu>

研究分野

- ・地域リハビリテーション・介護・住宅改修・福祉用具
- ・日常生活活動・基本動作能力別のADL助助方法

キーワード 高齢者、加齢変化、疑似体験、社員教育、商品開発、コミュニケーション

研究シーズの概要

高齢化が進む中、高齢者の心身の加齢変化と生活上の問題を理解し、周囲の環境がどのように対応するかは、高齢者の生活を支える上でも重要な課題である。高齢者の心身の加齢変化とは、文字が見えにくい、体が思うように動かないなど、不自由さは頭でわかっていても、実感するのは難しい。

そこで、高齢者を理解し、商品やサービスなどに役立てるために、高齢者の心身の変化を疑似的に体験することのできる用具を利用したプログラムを提案したい。

特定講座のご提案

【高齢者疑似体験プログラム】

1.用具



「うらしま太郎」公益社団法人 長寿社会文化協（WAC）

高齢者(75～80歳位)になった時の身体的・心理的变化を疑似的に体験

2.活用方法

1) 高齢者の不便さを実感

- ・高齢者に使い易い商品の開発
- ・高齢者にとつての住宅や建築物の改善点の発見 など

2) 高齢者の気持ちの理解

- ・高齢者関連商品を扱う社員教育
- ・高齢者を接客する銀行・病院・スーパーの従業員教育
- ・介護従事者（ヘルパーなど）教育 など

3.プログラム進め方

① 高齢者の心身機能の特徴(講義)

② 3人/1組

(体験者、介助者、観察者)

③ 体験プログラムの実施

- ・体験の目的、対象、人数、場所などに合わせて体験項目を設定
- ・企業と共同で、高齢者に関わるどんな場面を課題とするかを明確にし、個別に体験項目を設定することが重要

④ 感想・発表



4.これまでのプログラム

- ・日本医業経営コンサルタント協会『生活を支える看護師の実践事例と「食と健康」「看取り」の研究シーズを知る研修』：「高齢者疑似体験プログラムの提案」
- ・A銀行新入社員研修：「新入社員向けノーマライゼーション研修」
- ・次世代産業カレッジ講座：「高齢者・障がい者のための福祉用具の特徴」
- ・公開講座：「高齢者と体の不自由な方の生活に便利な用具を知ろう」
- ・学内授業：「日常生活活動学実習」 など



アピールポイント

高齢者の個人差はあるが、高齢者疑似体験プログラムを通し、高齢者は「こう見えているかもしれない」、「こう動くかもしれない」という知識と、「こんな時はこうだった」という体感を、高齢者に配慮した商品開発や環境の工夫、そして高齢者の方とのより円滑なコミュニケーションに役立てたい。